

2025 年度 学校法人 三幸学園 千葉リゾート&スポーツ専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 大友 研八

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 朝比奈 大輔

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

学校運営では学生の安全、安心を最優先に考え、学園のミッション・ビジョンの実現とスポーツ分野のビジョンや教育理念、そして人材育成像の実現に向けた取り組みを実施した。

- ・学生満足度(授業、行事、実習、就職)の向上と、愛校心(帰属意識)を持つ学生の育成
- ・学習習熟度の強化(わかりやすく、興味を持たせる授業の工夫)による、資格取得率の向上
- ・マインドの醸成から行動変容を促し、「挨拶」「掃除」「主体的な行動」が当たり前になれるよう指導

【取り組み】

- ・有償型インターンシップおよび業界関連ボランティアの強化
- ・ゼミ活動の体系化による上位層学生への支援の充実
- ・就職活動の早期化に対応したキャリア教育の実施
- ・教員・講師間の連携強化
- ・「社会人基準」に基づく学生指導の推進

【振り返り】

- ・インターンシップを任意参加制へ移行したことで、意欲の高い学生に対して機会提供が可能となった。
- ・学習機会の拡充により学習意欲の向上が見られた一方で、参加状況の差から学生間の意識格差が生じた。
- ・就職活動の早期化に対応した支援により内定時期の前倒しが進んだが、一部学生においては目標喪失による進路変更・退学が増加した。
- ・教員・講師間における指導力の差が顕在化し、一部学生の不満につながった。

② 学校関係者評価委員コメント

・教員、講師間での指導の差はどのようなものがあるのか、課題を抽出し取り組んでいく必要があると思われる。
(朝比奈委員)

・インターンシップは上位層学生への取り組みであるが、中間・下位層への施策を講じる必要がある。(清水委員)

・昨年度、年明け以降に入社した三幸学園卒の人数は 7 名であった。就職活動の動きが遅い学生を中間・下位層と位置づけるのであれば、人柄などが評価されて採用に至っているケースもあることから、一概にそうとは言えないのではないか。(清水委員)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

①課題

・教員の業界理解不足により、指導の質に差が生じている。
・企業訪問が目的化し、教育へ十分に活用できていない。

②今後の改善方策

・全体会議等を活用し認識の統一を図るため、目標と現状のギャップ・改善策等について、ディスカッションをする機会を設ける。

→年 5 回以上の学科会を実施する。

・業界の動向を収集する機会が不足しているため、実習や就職企業への訪問を増やす。

→年間目標を設定し、企業訪問へ積極的に参加を促す。その際の目的を明確化し、得られた情報を教育活動や教務運営へ活かす施策を講じる。

③特記事項

特になし

④学校関係者評価委員会コメント

・業界の課題（人材不足等）について学校から、学生に発信することで、業界理解の促進や学習・就職に対する動機付けや支援などにもつながるのではないかと。教員が自発的に業界動向へ関心を持てるよう、興味を持ちやすい分野の情報収集機会を増やし、SPORTEC の参加などを積極的に促す。（中込委員）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①課題

- ・コンプライアンスに対する意識の不足
- ・事務体制・業務環境の課題
- ・業務効率化に対する意識の不足

②今後の改善方策

- ・ハラスメント対応体制の明確化
- ・業務フローの整備および情報共有の強化
- ・AI・ICT 活用による業務効率化と研修の実施

③特記事項

- ・事案発生時には役職者や相談窓口にて速やかに対応を行う。あわせて、事例を部門内で共有し、再発防止に努める。

④学校関係者評価委員会コメント

- ・弊社では 3 か月に 1 度コンプライアンス研修をしている。コンプライアンスの定義の確認することを通じて、教職員間での認識の統一を図ることが重要である。（清水委員）
- ・AI 等の活用における好事例として、マニュアルを AI に読み込ませることで業務の効率化を図り、本来注力すべき業務に集中できる環境を整えている。（衣川委員）
- ・AI・ICT による成果を残し、好事例として共有する仕組みを構築してはどうか。（中込委員）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

①課題

- ・担任メンバーへの業界理解・職種理解の機会の不足している。
- ・学生の職業観を醸成する機会が不足している。
- ・講師向けの授業力向上の機会を、案内はできているものの、参加促進には至っていない。

②今後の改善方策

- ・担任メンバーや講師向けに、学園で行われている授業力向上研修の参加促しを個別に行う。
- ・専門学校入学後の早い段階で現場体験や授業体験を行い、その後、通常授業へ移行する。
- ・担任メンバーに対し、企業様担当者からスポーツ業界の現状や仕事内容について話を伺う機会を設け、教育現場と業界現場とのギャップを埋める。

③特記事項

- ・三幸学園の教育とは何か、理解を促す機会を全体会議にて責任者から実施している。
- ・授業アンケートで評価の低い教員や、学生からのコメントが気になる教員は責任者が面談を実施している。
- ・授業アンケートと学校生活アンケートの項目の中で、特に部門として力を入れていきたいものを提示し、全教

職員の統一認識を図った。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・目標喪失を要因とする退学が多かったことを踏まえ、入学から卒業までの成長イメージや目標を可視化したロードマップを作成してはどうか。弊社内では新卒採用後、モチベーション維持向上の目的とした研修制度を導入している。（清水委員）
- ・目標を振り返る機会として、学生同士でのグループワークなどで自身の目標を共有し、定期的に振り返る機会を設けてはどうか。（中込委員）
- ・教員、教職員の研修や自己研鑽の機会を設けていることは良い取り組みである。今後は、参加することによるメリットをより明確に示し、参加促進につなげることが必要である。（清水委員）

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・主要資格(健康運動実践指導者等)の取得向上
- ・他任意資格の取得率向上
- ・目標喪失/進路変更/人間関係を要因とした退学率の増加

② 今後の改善方策

- ・主要資格の完全任意化に伴う受験支援体制の強化(対策授業の充実及び資格対策チームの発足)
- ・学科育成方針を軸とした年間育成計画の策定・運用
- ・リゾスポキャリアラボの運用、同窓会 LINE や各種プログラムを活用した支援体制の強化
- ・2025年度卒業生を対象とした同窓会を開催し、卒業生と教員の交流機会を設ける。

③ 特記事項

- ・2025年度は前期において目標喪失や人間関係が理由での退学者が増加したことから、早期の業界理解や業種理解の機会を提供している。
- ・毎週の担任会議にて、要支援学生の共有と対策についてメンバー間で意見交換を図っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・退学理由の「目標喪失」を原因別に分類して分析することは必要だと思われる。傾向に応じた対策を講じていく必要がある。（佐藤委員）
- ・資格取得率の低下には、就職に必要な資格だと認識していない学生も多いことが関連しているのではない。動機づけの際に、資格を取得するメリットやどのような点で役立つのかを学生が理解できていない可能性がある。（清水委員）
- ・資格取得率は全国の学校で異なるのか。資格担当の教員と授業を行う講師との間で、資格取得に対する意識や温度差が生じていると考えられる。（中込委員）

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	2
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・スクールカウンセラー制度を導入し、学生が利用できる環境はあるが、教員から利用の促しが十分できておらず、支援が必要な層への提案につながっていない。
- ・学生状況については担任メンバー間の情報共有が乏しく、一部の情報が担任のみの把握に留まっている。
- ・担任メンバーの異動もあり、卒業生との関係性が希薄化している。直近の卒業生との交流に限られており、学内には支援する制度もない為、卒業生ネットワークの活用がほとんどできていない。

② 今後の改善方策

- ・学生にスクールカウンセラー制度があることを周知徹底し、支援が必要と思われる学生には積極的に案内をしていく。担任メンバーだけで問題を抱え込まない支援体制を構築する。
- ・退学兆候が見られる前に面談を実施し、面談担当者を変更するなど多角的な関わりを通じて、学生のモチベーション管理をしていく。

- ・教員間での連携を強化し、モチベーションが低下している学生については複数名の教員で支援や動機づけを行う。
- ・卒業生が勤務する企業に訪問することで、状況を把握し、その後の支援にも役立てながら関係性を構築していく。
- ・卒業生を対象とした学習機会を創出し、母校へ足を運ぶきっかけを作る。

③ 特記事項

- ・就職支援体制として複数名の教員による就職支援システムを構築している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・卒業後の同窓会は、キャリア相談として活用できるほか、同級生との交流の機会にもなっている。勉強会も良いが、懇親会など気軽に参加できる場が対面で行われると望ましい。(衣川委員)
- ・コース毎で繋がることのできる連絡ツールがあっても良いのではないかと。実際にアスレティックトレーナー科アスレティックトレーナーコースではそのような仕組みが存在する。公式化してしまうと気軽に入りづらくなる可能性があるが、卒業生との交流できる場は今後の教育の発展に必要なと感じる。(衣川委員)

(6) 教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・年度初めに環境の整備が十分に行われておらず、実技授業等を行うにあたって十分な教育環境ではなかった。また、マシンの不具合が生じており、多くのマシンでメンテナンスが必要な状態であった。
- ・防災・安全管理に関するマニュアルや学内の掲示物については毎年更新し、共有を行っているが、講師や学生を含めた避難訓練等については案内が不十分である。

② 今後の改善方策

- ・マシン等の定期的なメンテナンスを実施する。
- ・ホームルームの時間を活用し、避難場所/避難経路の確認を行う。

③ 特記事項

- ・2025年度の状況を踏まえ、今年度はトレーニングルームの増設や体組成計(InBody)の導入など環境の整備に努めている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・フィットネスや現場の動向的にも、ウェイトトレーニングのマシンだけでなく、コンディショニングにも重きを置いたようなマシンが必要ではないか。実際にトレーニングやスポーツ活動における事故や怪我などのニュースは絶えない。どのようなケースで事故が起きているかを学生に考えさせる機会があった方がいいと感じる。また、企業へ伺うなど、実際に現場を見ることは非常に効果的である。(衣川委員)

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・入学希望者に対し、職業理解の為に体験イベントや学校説明に努めているが、十分に内容が伝わっていないことも多く、入学後にギャップを感じる学生もいる。

・担任メンバーと在校生スタッフがオープンキャンパスにて高校生対応を行うが、その説明内容や対応品質が個々の経験やスキルに依存しているため、高校生へ業界の魅力が十分に伝わっていないケースが生じている。

② 今後の改善方策

・入学前の段階で学校生活の様子や授業内容、将来目指すべき職業についてギャップが生じないよう複数回説明の機会を設ける。

・企業訪問にて業界を学ぶ機会や、担任会議を活用して、職業や業界、学科・コースの魅力を適切に伝えられよう担任メンバーの能力向上を図る。

③ 特記事項

・特に学習難易度の高いアスレティックトレーナーコースについては入学前の12月に別途説明会を実施し、再度コース選択の機会を与えている。

・在校生スタッフ育成の機会として年6回程度ミーティングを開催し、能力向上を図っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・入学後のギャップへの対処として、好事例を姉妹校間で共有をすることが望ましい。(佐藤委員)

・イメージがしにくい職業ほどギャップが生まれやすい傾向がある。カリキュラム変更後の経過観察を行い、定期的な改定が必要である。(朝比奈委員)

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

①課題

【中長期計画】

・特になし

【予算・収支計画】

・特になし

【会計監査】

・特になし

【財務情報の公開】

・特になし

②今後の改善方法

【中期計画】

・特になし

【財務情報の公開】

・特になし

③特記事項

2025年度は第3期中期経営計画(2023年度～2027年度)の3年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第2.0版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

①課題

- ・更なる法令遵守の推進が必要である。
- ・個人情報の取り扱いについては、今後も周知徹底を図る必要がある。

②今後の改善方策

- ・全体会議及び担任会議や学内掲示物を通じて、法令遵守に対する啓蒙活動を継続的に行う。

③特記事項

- ・特になし

④学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

①課題

- ・地域貢献や学校運営について知っていただく機会や地域の方々との交流の機会を提供できていない。

②今後の改善方策

- ・学外や学内で地域住民や近隣の高校生へ還元できるイベント（トレーニング指導やボディケアなど）の実施を検討する。
- ・施設利用の提案を行い、学生の教育機会を創出する。

③ 特記事項

・姉妹校や他法人では「学内フィットネスクラブ」の運営を行い、地域住民や関係性の深い高校生を招いてトレーニングやコンディショニング指導を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・地域向けの公開講座等の実施予定はあるか。地域と交流できる機会として検討してはどうか。（佐藤委員）
 ・以前はスポーツ大会などでストレッチブースを出展し、アウトプットの機会をいただいていた。責任を学生自身に持たせるイベントを定期的に関催・参加することを促す必要がある。（衣川委員）
 ・外部との交流を図る際、学生の発想力や AI を活用して提案もできるのではないか。新たな取組を創出するためには、学生や若手教職員の力を借りる必要性もある。（中込委員）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学生一人ひとりのモチベーションや習熟度に応じた教育機会の提供に向け、教職員の継続的な自己研鑽と教育力向上を推進する必要がある。また、卒業生とのつながりを強化し、在校生との交流機会を創出することで、学生が将来像を具体的に描ける環境づくりを進めていく。

さらに、スポーツ業界に関する知識の習得に加え、業界が抱える課題についても考察する機会を設け、学生自らが課題を発見し、主体的に行動できる人材の育成を目指す。

今後も教育内容の改善と実践を継続し、社会や業界のニーズに対応できる人材育成に取り組む。